

特定農林水産物等登録簿

登録番号	第 22号	登録年月日	平成28年12月7日（2016年12月7日）
申請番号	第 28号	申請年月日	平成27年6月29日（2015年6月29日）
特定農林水産物等の区分	第四十一類 畳表類 七島イ畳表		
特定農林水産物等の名称	くにさき七島蘭表 ^{しちとういおもて}		
特定農林水産物等の生産地	大分県国東市、大分県杵築市		
特定農林水産物等の特性	<p>くにさき七島蘭表の原料となる七島蘭はイ草の5～6倍の強度を持ちまた、イ草の2倍以上耐焦性を持つ。そのため、柔道畳はもとより職人の仕事場や劇場の栈敷、炭鉱の住宅、北関東から東北にかけての囲炉裏を使った農家などでは欠かせない敷物だった。</p> <p>【別紙1 七島蘭の耐焦性データ（大分県農業技術センター）】 【別紙2 七島蘭の強靱性のデータ（大分工業試験場）】 【別紙3 大分文理大学柔道場（くにさき七島蘭振興会）】 【別紙4 高山陣屋の女中部屋（くにさき七島蘭振興会）】</p> <p>織り方の違い</p> <p>一般的なイ草の畳表は引目織りで織られ、一目に二本糸が入り目が揃って織り上げられるのに対し、くにさき七島蘭表は青筵とも呼ばれ筵と同じ一目に一本の糸が入る目積織りのため畳目の間が荒く織り上げられる。その為、イ草の表のような均一な美しさではなく、ざっくりとした自然な風合いが感じられる。</p> <p>【別紙5 イ草とくにさき七島蘭表の織りの違い（くにさき七島蘭振興会）】</p> <p>色合いの変化</p> <p>くにさき七島蘭表はクリーム色から飴色に変わりイ草表と違い艶が出てきて使うほどに味わいが増す。 近年、琉球畳と言われる縁の無い畳が増えてきているが、元は古民家などで見られる七島蘭を使った縁無畳から来ていて、自然な風合いが好まれ関東圏を中心に人気が高い。</p> <p>【別紙6 七島蘭の色合いの経年変化（くにさき七島蘭振興会）】</p> <p>価格・相場</p> <p>畳業界紙である敷物新聞社の平成27年11月20日付けの相場表では、一次問屋である産地問屋の庭先渡し値が上物で15,000円となり、記事にもあるように高い人気相場を上げている。この人気の元は先にも述べたように他のイ草表とは原料も、織りも全く違</p>		

う畳表であるということだ。他の地域との産地間の競争も無く全く独自の風合いが評価されている。イ草表との比較は難しいがサイズと織りに使う糸から比較すると、本間麻引きというクラスに相当する。高級ブランドの国産イ草畳表の2～3倍程度の価格にも関わらずイ草には無い独特の風合いが喜ばれ、国産のくにさき七島藁表は非常に人気が高く、年間2,000枚程度の出荷が限界であるにもかかわらず、10,000枚程度の注文が寄せられている。

【別紙7 藁草・藁製品相場表（平成27年11月20日付け。敷物新聞社提供）】

【別紙8 大分産地の状況（平成27年11月20日付け。敷物新聞社提供）】

特定農林水産物等の生産の方法

1 くにさき七島藁表の原草の基準

くにさき七島藁表の原草は国東市産もしくは杵築市産の七島藁で以下の基準を満たした乾燥した原草を使用すること。

- ① 原草は製織用に裁断された長さ120cm以上のものを使い、茎の太さが中庸でバラツキがなく、茎の先端と根元の太さが揃っているもの。
- ② 虫食い、変色、折れ、などの無い原草を使うと共に、畳表の表面が均一になる様に太すぎたり細すぎるものは織り込まないように選別する。
- ③ 原草の色沢は鮮やかな銀青白色で、適度な弾力があり、製織した畳表が均質な色沢となる様に選別する。

2 製織の基準

高品質の表織りの出来る織機(下記①または②)により、③の織り糸を使用し国東市もしくは杵築市産の七島藁を使い目積織りで織り上げられたもの。

- ① 高品質の表織りの出来る半自動織機で、七島藁表の押さえの機構が二つ付いた最も後期の織機で製織したもののみとする。
- ② 高品質の表織りの出来る全自動織機で、七島藁表専用として改良された織機で織られたもののみとする。
- ③ 織り糸は全自動織機の場合15番手以上、半自動織機は30番手以上のジュウト麻糸とする。

【別紙9 くにさき七島藁半自動織機（くにさき七島藁振興会）】

【別紙10 くにさき七島藁全自動織機（くにさき七島藁振興会）】

3 くにさき七島藁表の出荷基準

上記の基準で選別された原草を用い、織り上げながら折れや色むら抜けや二本差しなど不具合を発生させないように注視しながら織り上げる。基準は以下の通り。

- ① 規格 幅 95～110cm
長さ 200cm以上の場合、重量 一枚2.3kg以上

	<p>(上記以外の長さの場合、重量は上記の基準に準じる)</p> <p>② 畳表にイ切れ、経糸切れ、間不足の不具合がないこと。</p> <p>③ 七島藪栽培の生産者、製織者名、が明示されていること。</p> <p>④ 七島藪表の織り方、長さ、幅、重量が規定通りに出来ていること。</p> <p>⑤ 虫食い、色むら、折れ、二本差し、など無く優美に織り上げられていること。</p> <p>最終製品としての形態：「くにさき七島藪表」の最終製品としての形態は七島イ畳表である。</p>
<p>特定農林水産物等の特性がその生産地に主として帰せられるものであることの理由</p>	<p>七島藪は、主に畳表の原料として使われ東南アジア原産のカタリクサ科の植物である。七島藪という名称はトカラ列島が原産地であり、当時住民が住んでいた島が7つあったところから名付けられた。</p> <p>七島藪は、亜熱帯の植物のため高温で日照時間が長いほど生育が旺盛になるが、南に行くほど生育が旺盛になり過ぎ表皮が固くなりしなやかさに欠けるようになる。低温には弱い植物であり地下茎で冬を越すため、霜などで地面が凍結すると地下茎が損傷して、生育不良や出芽不良を招くため、平均気温が15度以上で、0度以下の日が続かない温暖地が良いとされている。また、湛水状態だとベツ甲病という七島藪独特の赤い斑点がでる病気に罹りやすく植え付け後、根が活着した後は水を抜き乾いた状態にしておく必要がある。このように七島藪栽培には日照時間が長く降水量が比較的少ない地域で冬場は霜が降りにくい気候が最適であると言える。国東半島は温暖で比較的降水量が少ない瀬戸内海式気候であり、上記の条件に合い、また、日照時間が長い割に暑すぎないという気候が、しなやかな畳表を作るための七島藪栽培に最適な地と言える。</p> <p>原料である七島藪自体に耐焦性があるため、くにさき七島藪表はイ草の畳表よりも焦げにくい性質がある。</p> <p>また、原料である七島藪自体にイ草よりも強度があること、草にストレスをかけにくい目積織りで織られていることから、イ草の畳表と比較して強度がある。目積織りは、筵と同じ織り方であるため、イ草の畳表で用いられる引目織りのような均一な美しさはないが、ざっくりとした自然な風合いに仕上がる。織り方に由来するくにさき七島藪表の独特の風合いへの評価は高い。</p> <p>国東半島は両子山の噴火によって出来た地域であり、耕作面積が狭く、火山性の土壌で保水力が無い上、瀬戸内海式気候で雨が少なくという不毛の地だった。先人が椎茸栽培のため山頂にクヌギを植えたことで、落ち葉や役目を終えたクヌギなどで腐葉土が形成されると共に、1200もの、ため池を山に作ることでようやく農業が可能になった。それでも猫の額ほどの圃場がほとんどであった。そんな小さな圃場にうってつけなのが七島藪だった。小さな圃場だから水の管理もしやすく、ベツ甲病という七島藪特有の病気に罹っても広域に広がることが無い。そしてなにより換金作物として冬場の農閑期に夜なべをして織り上げれば翌日現金になる。このことが、秘境と言われた地域であっても多くの若者が高等教育を受けられ、皮肉にも産地の衰退を招いたとも言える。このように江戸の初期から、昭和中頃まではこの地を支えた重要な作物であった。</p> <p>このような価値のある産業であったが、過酷な農作業や、専業農家でしか栽培できないことで急激に減少、平成21年には5軒ま</p>

	<p>で減り産地消滅も目前だった。その様な状況に危機感を持った県内畳店、七島藺問屋、行政、地域住民や移住者、生産者などで「くにさき七島藺振興会」を立ち上げた。振興会では、生産者の長年の経験とくにさき七島藺に価値を見いだした移住者の知見を併せながら、350年の伝統を守りつつ、七島藺のファンのすそ野を広げるための活動を実施している。また、担い手の育成や支援も実施しており、七島藺の文化を地域共有の財産として守り育てている。</p>
<p>特定農林水産物等がその生産地において生産されてきた実績</p>	<p>東南アジア原産である七島藺がいつ日本に伝わったかはわからないが、江戸時代以前、すでに琉球(りゅうきゅう)(沖縄県)や薩摩藩(さつまはん)(鹿児島県)では栽培から加工までが行われていたと考えられる。</p> <p>豊後(ぶんご)(大分県)に七島藺が伝来したのは、1660年以降で、府内(ふない)伝來說と日出(ひじ)伝來說があり、どちらも鹿児島地方の七島藺苗を持ち帰っている。持ち帰られた苗は、府内藩(大分市)・日出藩(日出町)・杵築藩(杵築市・国東市)などによって栽培が奨励され、別府湾沿岸の地域に急速に広がった。</p> <p>現在に至るまでの経緯</p> <p>1750～1770(宝暦・明和)には各藩の保護奨励により急増し豊後は青筴の本場となり幕末には300万枚におよび豊後表の名で知られた。</p> <p>青筴は農家の収入源と共に、藩の財源としても重要な位置を占めた。商人には権利金や毎年の運上金を上納させ農民からは税を徴収し、藩の財政を助けた。</p> <p>藩は製品の規格を定め、積出検査も厳重にし、役人が出張し販路拡大や青筴の市況を探るなど品質を高めるため指導統制した。</p> <p>昭和8年には七島藺試験地が設置され、昭和10年1600ha生産高650万枚に達した。昭和20年代後半から社会情勢が安定し七島藺の栽培も復旧し昭和31年から33年にかけて1500ha550万枚の盛況をみせ、全国一の生産を誇った。</p> <p>しかしながら、大分地方は新産業都市建設、大分鶴崎臨海工業地帯の造成で七島藺栽培も自然消滅し、国東地方も柑橘振興策により転向する農家が相次ぎ、また兼業農家が増加し臨空地帯農業の振興とあいまって急速に生産者が減少した。</p> <p>平成21年大分県中津市の二豊製畳有限会社が大分県の特産品であった七島藺の産地消滅を防ぐため活動開始、平成21年厚生労働省の「ふるさと雇用再生事業」に七島藺の再生事業が採択され本格的な再生に取り組む。生産者のみならず県、市、多くの協力者を得て平成22年10月「くにさき七島藺振興会」を設立。</p> <p>当時生産者5名のうち4名は70代以上で産地消滅寸前だったが、平成27年6月現在、新規就農者も増え10軒となり平均年齢も大幅に下がり産地復活に向けて活動している。</p> <p>【別紙11 七島藺試験地(くにさき七島藺振興会)】 【別紙12 大分県でのシチトウイ栽培面積と研究指導機関の変遷(林浩昭 世界農業遺産「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」での重要特用作物シチトウイの栄枯盛衰と試験結果より)】</p>

<p>規則第6条第2項各号に掲げる事項</p>	<p>第13条第1項第4号ロ該当の有無：該当しない 商標権者の氏名又は名称：－ 登録商標：－ 指定商品又は指定役務：－ 商標登録の登録番号：－ 商標権の設定の登録（当該商標権の存続期間の更新登録があったときは、商標権の設定の登録及び存続期間の更新登録）の年月日：－ 専用使用権者の氏名又は名称：－ 商標権者等の承諾の年月日：－</p>
<p>登録生産者団体の名称及び住所並びに代表者の氏名</p>	<p>くにさき七島蘭振興会 大分県国東市安岐町富清 3209 会長 林 浩昭</p>
<p>（注）登録事項の変更があった場合には、記録部の登録事項欄に、変更年月日及び変更に係る事項の概要を記載する。</p>	

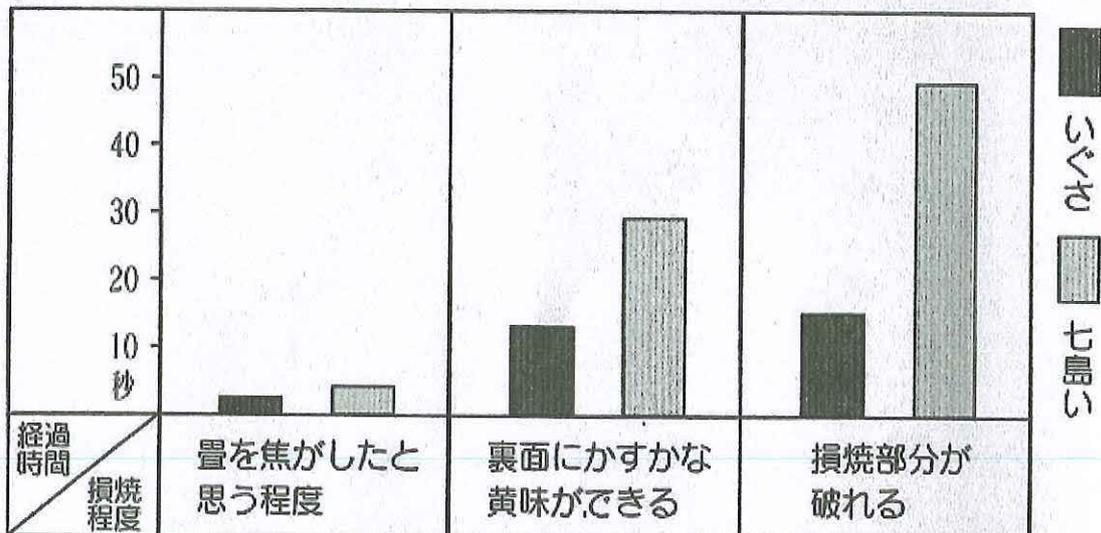
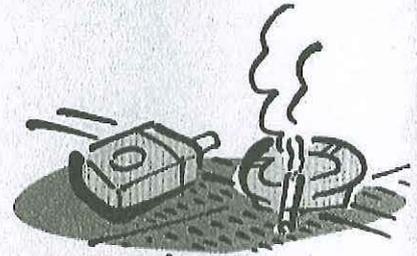
< 特定農林水産物等の名称の記録部 > (登録番号)	
番号	登録事項欄
< 特定農林水産物等の生産地の記録部 > (登録番号)	
番号	登録事項欄
< 特定農林水産物等の特性の記録部 > (登録番号)	
番号	登録事項欄
< 特定農林水産物等の生産の方法の記録部 > (登録番号)	
番号	登録事項欄
< 特定農林水産物等の特性がその生産地に主として帰せられる ものであることの理由の記録部 > (登録番号)	
番号	登録事項欄
< 特定農林水産物等がその生産地において生産されてきた実 績の記録部 > (登録番号)	
番号	登録事項欄

< 規則第 6 条第 2 項各号に掲げる事項の記録部 > (登録番号)	
番号	登録事項欄

＜登録生産者団体の記録部＞		（登録番号）
番号	登録事項欄	

◆火気に強いこと

美しい畳も“たばこ”の火などで焦がしてしまっては台無しです。この点「青表」はいぐさに比較して2倍以上の耐焦性のあることが、わかっております。

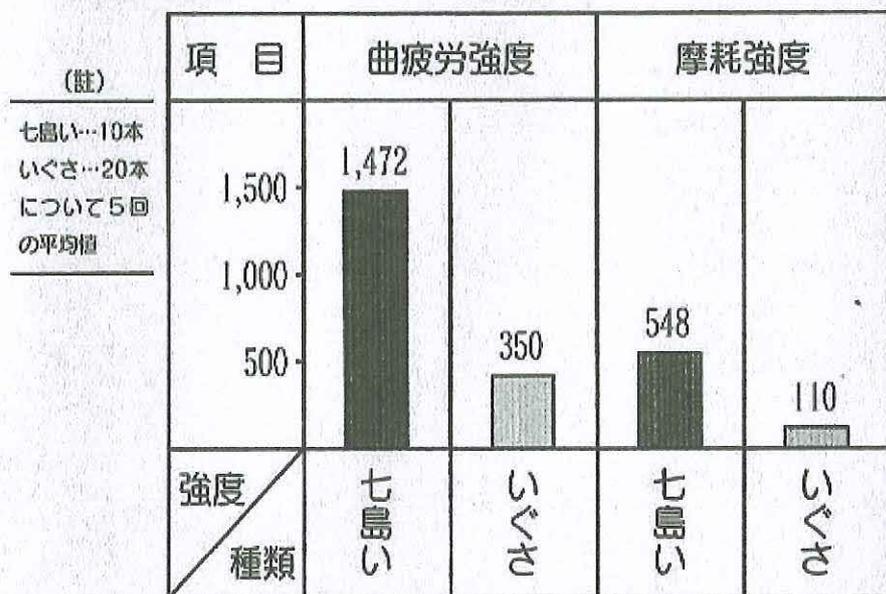


大分県農業技術センター

大分県農業技術センター

◆耐久力にすぐれていること

七島い（青表）は、いぐさ（丸い）に比較して強靱性に富み試験の結果では、いぐさに比較して優に5～6倍の強さを持っていることが実証されております。



(大分県工業試験場)



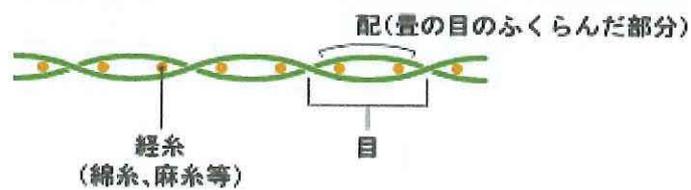
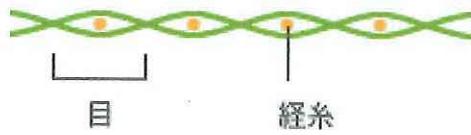
大分工業試験場

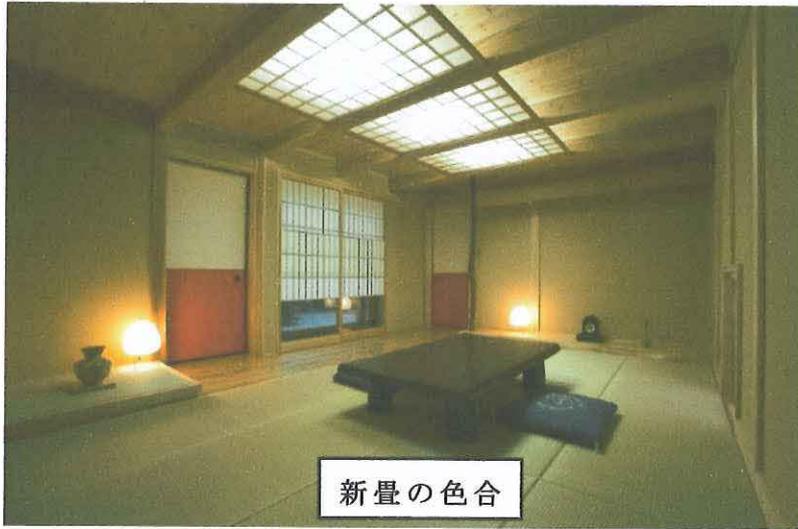


大分文理大学柔道場



高山陣屋 女中部屋





新畳の色合



5年程度の色合



20年程度の色合い

蘭草・蘭製品相場

(産地問題先渡し)

熊本		中国寧波		大分産球球表	
ひのさらさ本間麻綿W	特選新 8000	本間麻綿W	特上 2050	特上新 15000	
特上新 7000		特上 1850		並新 11500	
ひのさらさ五八麻綿W	特選新 5500	中 1650		長尺新 13500	
特上新 4500		本間綿綿		広巾新 13500	
ひのさくら本間麻綿W	特上新 5600	特上 1830		四川産青表	
特新 5100		上 1680		並尺新 7700	
ひのさくら五八麻綿W	特上新 3800	中 1530		並尺新 8500	
特新 3300		五八麻綿W		広巾新 9000	
ひのさやか五八	特上新 3000	特上 1850			
麻特	上 2700	上 1650			
並新 2100		並 1500			
糸特新 2500		五八綿綿			
上 2200		特上 1580			
並新 1600		上 1430			
麻引本間		中 1280			
特		本間糸引			
上 3200		特上 1680			
並新 2900		上 1530			
麻引五八		中 1380			
特		下 1230			
上 2600		五八糸引			
並新 2000		特上 1430			
下新 1700		上 1280			
綿引本間		中 1130			
特新 3200		下 1030			
上 3000		◆中国四川			
並新 2500		各種とも寧波より			
下新 2200		中・上物 200高			
五八麻綿W		下物 100高			
特新 3500		◆福岡			
上 2700		博多華織			
綿引五八		本間新 5700			
特新 2500		博多華織			
上 2200		五八			
並新 1600		博多咲織			
下新 1150		本間新 4600			
		博多咲織			
		五八			
		麻引本間			
		特			
		上 3050			
		並新 2750			
		麻引五八			
		特			
		上 3800			
		並 2800			
		◆石川			
		麻引三六			
		特上 5000			
		麻引五八			
		上 3800			
		並 2800			
		◆高知			
		綿W本間			
		特上新 3300			
		上 2800			
		綿W五八			
		特上 2550			
		特上新 2150			
		並 1400			
		◆山(國産)			
		本間			
		特上 2900			
		特上 2600			
		特上 2200			
		三六			
		特上 2700			
		特上 2400			
		特上 2200			
		五八			
		特上 2500			
		特上 2300			
		特上 2100			
		◆福岡(國産)			
		五八			
		特上 2400			
		特上 2000			
		並 1500			
		五八込			
		上 1300			
		並 1000			
		◆中国(諸目)			
		本間			
		特上 2000			
		特上 1600			
		五八			
		特上 1700			
		上 1300			
		◆熊本技蘭(°当たり)			
		長蘭 880			
		中蘭 540			
		短蘭 220			

【産地概況】熊本産地では、大方の生産者でい... 熊本産地... 強気配... 肥後物産株式会社... 大分産地... 強気配... 高値で完売した。売れ行きは需要期のため表替え仕事も出て入用... 買ひ注文も相次ぐを順調だが、12月の売れ行きが気にかかるところ。相場は上物製品は高値ながら、下物製品は横這い状況。この先11月中は高値のまま推しそつだ。

肥後物産株式会社
〒869-4703 熊本県八代市千丁町駅前
TEL(0965)46-1131(代) FAX(0965)46-1134

【青表】稲の収穫作業... 強気配... 高値で完売した。売れ行きは需要期のため表替え仕事も出て入用... 買ひ注文も相次ぐを順調だが、12月の売れ行きが気にかかるところ。相場は上物製品は高値ながら、下物製品は横這い状況。この先11月中は高値のまま推しそつだ。

況では、製品の出回りは... 熊本産地... 強気配... 高値で完売した。売れ行きは需要期のため表替え仕事も出て入用... 買ひ注文も相次ぐを順調だが、12月の売れ行きが気にかかるところ。相場は上物製品は高値ながら、下物製品は横這い状況。この先11月中は高値のまま推しそつだ。

敷物新聞社提供平成27年11月20日付け

込みから、相場は現状のまま推しそつだ。



上物高

生産農家では植付面積も少ないため、い苗こぎは下旬頃から着手の予定。このため生産はぼつぼつながら続けている。

(株)福岡県豊表市場では12日に市場を開き、五八引通表985枚、同諸目引通し401枚が出品された。問屋業者では地物新表の手当買いを進めたため、五八の上物は若干高値で完売した。

売れ行きは需要期のため表替え仕事も出て入用買い注文も相次ぐなど順調だが、12月の売れ行きが気にかかる。

相場は上物製品は高値ながら、下物製品は横這い状況。この先11月中は高値のまま推しそつだ。



強気配

【青表】稲の収穫作業

中国産手織青表

小原市東国大分 株式会社 大幸物産 大営業所
TEL 0978-72-4747
FAX 0978-72-4746

も完了し、新表の受注を抱えていることもあり、フル稼働を行うもの、一日に1〜2枚の製織状況では、製品の回りは甚だ少ない。

関東地域の青表が人気が高いため、新表の生産につれ受注が相次ぐものの、産地見学者からの受注も多く、産地問屋筋への入荷は至って少ない。

産地問屋業者では「受注にお応えできずとも残念だ。お待ちいただきたい出荷の見通しが立てず、不可能なことになりそつだ」と生産が上がらない状況をなんとかしなくてはと焦っている。相場は品不足が見だし

く異常高値の出現となる。



強気配

生産農家では、早いところは11月末頃い植えを行うところもあるが、大方はゆっくりい苗こぎを行い、12月中旬を越して春植えのところもある。豊表の生産は目下のところ問屋業者の機先においてヒネ草や新草によるフル稼働が続いている。

売れ行きは需要期のため受注も相次ぐなど順調に推移しているものの、かつてのような売れ行き状況には届かない。

相場は備後表は品不足から高値強気配ながら、広島表の下物は横這い状況。



横這い

専業家筋では諸目の生産などぼつぼつ稼働を続けているものの、問屋業者からの受注分のため、出回りは至らない。

敷物新聞社提供平成27年11月20日付け

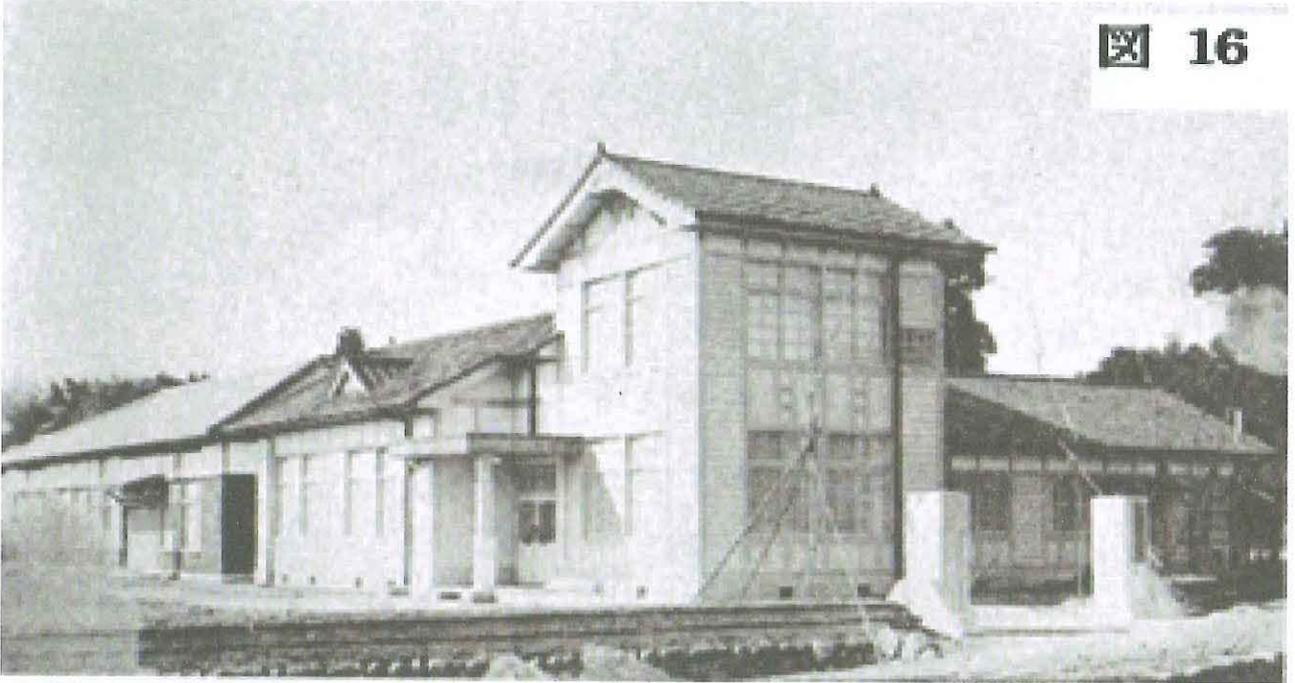


半自動織機



全自動織機

図 16



設立当時の、大分県農事試験場
七島藺試験地（昭和8年）

(12) 世界農業遺産「クスギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」での重要特用作物シチトウイ



図9 大分県でのシチトウイ栽培面積と研究指導機関の変遷

1892年～1979年（阿南正・前田哲夫・本多公司（1980）¹³⁾），1975年～1994年（農林水産省（1995）⁹⁾），1994年～2005年（大分県農林水産部（2007）¹⁶⁾）および2006年～2014年 大分県東部振興局調べ（未発表）をまとめてグラフ化した。1975年から2014年までは縦軸の拡大図を囲みに入れた。上部には、大分県の農業関連研究機関の変遷³⁹⁾を、2列目1933年より2000年まではその中でもシチトウイ関連研究機関^{11, 19, 39)}の変遷を示した。